
めでだしでは終わらない

一理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めでだしでは終わらない

【Nコード】

N2477I

【作者名】

一理

【あらすじ】

童話の物語は大抵ハッピーエンド。つまりめでだしで終わります。しかしソレに反発を覚えた姫子はたびたび夢の中で不思議な夢を見ることになり……？

小さいころ、私はずっと不思議に思っていた。

童話の中のお姫様に王子様……可愛そうな子どもが幸せになるお話しを、優しいソプラノのトーンで語る母を下から見ながらずっと思っていたことがあった。

幸せって、そんなに簡単に手に入るものなの？

どうしてめでだして分かるの？

王子様と結婚することは幸せなの？

有栖川 姫子

名前でよく弄られた記憶がある、今は小さな会社のOLで28歳もうすぐ三十路。しかしこの歳になっても一向に社会の厳しさというか、ルールに馴染めないでいた。

「うわー、参ったな……また遅刻」

姫子はベットの中で横になったまま壁にかけてあるキャラクターの絵付きの時計を凝視した。

今度遅刻したらクビだあ ！ってハゲ親父が叫んでたっけ？

ふあああ、……まあいいかあ眠たいし、寝ちやえ

もう一度布団の中に包まると一分も経たないうちに夢の中に入ってしまった。

………。

「お嬢さん」

「え？」

話しかけられて後ろを振り向いた。正しく、**魔女**、って感じのお婆さんがいた。

「ワシの家に何か御用かえ？」

「家ってコレ？」

お菓子の家……もしかして『ヘンデルとグレーテル』？あれ？でも婆さんが持つてるのは真っ黒い林檎よね。

「もしよろしければ手伝ってくれんかのう」

よくよく気がつくと自分の服がパジャマからエプロンドレスになっていた。えーと？これはどの世界の服なのかしら？つか夢よネエ？

「手伝ってくれんかのう、腰が痛くて」

このババア厚かましいわね。まあいいわ

「いいわよおばあさん、何をしたらいい？」

「倉庫の中にうちに入る鍵があるんじゃ、取ってきておくれ」

何故そんなところに鍵があるのよ。

「……倉庫ってコレ？」

「それじゃあ」

横穴の奥にあるって……これどうみても倉庫じゃなくて牢屋よねえ？

「あ、お婆さん大変見て！こんなところに……」

「?????」

ちよつと分かりやすいぐらいの演技に騙されてババアはこのことよつてきた。

どん！

背中を押して牢屋の中に入った。ざあまみなさい、私を閉じ込めようとするからよ！

「さーて、どうしたものかしらね」

とりあえずお菓子の家に入つてみた。

ぐら……視界が揺らいだかと思つたら世界が変わつた。夢つて気持ちいいものじゃないのね

「王子様……」

船の甲板で嘆いているのはもしかして『人魚姫』？ふーん、美人じゃない？夢だけど

王子様を殺すか殺さないかで悩んでいるみたいね。私が手助けしてあげましょう。

……。

「王子様、今だけ限定一個のレアなお食事を用意しました。」

「きいていないが？」

「結婚なさるんでしょう？お祝いです」

ふーん、王子様つて意外とふつくらしてんのね。夢だけど

「…………ふふ」

残さず食べてくれたわね、よかったわね人魚姫これで貴方は王子が死ぬまでずっと彼の中にいき続けることができるわよ……………あんたの大好きな王子様の御腹の中だね。

「つつう」

酷い頭痛がして目を覚ました。

「起きんか！姫子！！説教の間に眠るとは何事か！！」

「は、ハゲ親父？！」

どうして私の家に上司が？！って思っているところは何故か会社だった。しかも服だってちゃんとスーツだし。やばい、夢遊病？

「ハゲ親父？！」

あ、口滑らせてたっけ？

「お前なんか！くびだあああああ！！！」

「ス……………すみま……………あ」

ヤバイ眼が視界が霞んでいく……………夢の中にはいつていく気がした。

「ねえ」

服を掴まれた

小さな紅い頭巾をした少女だった『赤ズキン』？しかし腕にはマッチ箱『マッチ売りの少女』？

「マッチ……全部あげる」

「いらないわよ」

「お願い、私もう必要ないから。御代だっぺいらない」

「なにをするの？」

少女は悲しそうに微笑んだ。

あはははははは

ひやはははははは

ふふふふ！

ぎやはははは！

複数の笑い声がいつせいに聞こえた。イラ……っとなる。

周りが急に暗くなる、まるで『不思議の国のアリス』のアリスが迷子になったときのようじ。

この笑い声は動物のようだ、三匹の子豚に七匹の子ヤギ、かちかち山の狸……

「ちよつと！狸その唐草よこしな！！」

むりやりから草を奪つとさつき手に入れたマッチを使い火をつけて動物たちに向けて投げつけた。

火に驚いて逃げ惑う動物ども……

あははははははは！！ざまあみな！アタシをあざ笑うからだ！！！

ひやははははあ！！

「姫子ちゃん」

「!!!??」

周りの音も色も景色もなくなった。

「何?!だれ?!」

目の前にぼんやりとした影が浮かぶ

「姫子ちゃん」

「わ……私?私なの?」

目の前に現れたのは小さいころの私。ただし傷だらけの。

いや!!思い出したくない!

「覚えてる?お母さんいっぱい優しいかったね、絵本読んだ後必ず私を引つかいたね」

父に先立たれた母は狂っていた。たまに正気に戻っては泣きながら私に謝り、優しい声で本を読んで悲しみに気を狂わせ鬼と化した。それが毎日毎日続いていた。しかしソレも長くは続かなかった。

「これおぼえてる?」

空間に突如現れたたったひとつの椅子と見えない空間の上から垂れているタオルのワツカ。

覚えてる?覚えてるわよ、それで八八は首をつったわ。でもタオル

のくくりが甘かったのか母は死に切れず気絶していたわ。

「覚えててくれて嬉しいよ！ 姫子ちゃん！ じゃあさじやさ、お母さん……どうして死んじゃったのかな？」

どうして？

決まってるじゃない。私が首を絞めて殺してあげたのよ！

「きゃはは！！ 正解！ 偉い偉い。結局事故でソレは終わったよねでも心無い学校のお友達はなんていつてかな？」

お友達？ ああ………小学のときね………なんだったからしら

「ヒント！ 給食」

肉………そうよ、『人殺し』と喚くから人殺しになってやろうと思って、私………そうよ、クラスの子ども全員皆殺しにしたのよ。教室から出られないようにして殺して………他のやつらにも不幸を見せてやるうと給食に遺体をつっ込んだわ。………どうやったのかしら私独りでできないはず

「忘れちゃったの？ 事務のおじさんロリコンだったんだよ」

なんなの？ 私に懺悔しろって言うの？ 今更？ こんな所で？ なんなのよ！！ 自首でもしたらいいわけ？！

「そんなのに興味ないよ。」

少女は残酷に笑う。

「ねえ？物語にはフィナーレがつき物だよ？」

手を少女は差し出す。黒く淀んだ血を真っ赤に滴らせながら……

「終わらせようよ」

おわらせよう

おわり

物語は必ず終わる……。

「赤だわ」

ソレも真っ赤。

血と、肉片と、真っ赤に燃え上がる焔

彼女手には素っ気無いマッチが一箱ローマ字で『HIMEKO』と
かかれていた。

9

少年院の牢屋にぶち込まれる前に逆に警察を牢屋に突っ込んだっけ？

マッチ売りの少女……母に似ていたわね。

もう必要ないって……私のことだったのね……。

物語は終わるわ。

全てのものを皆殺しにし私自身も滅ぶの

何でもかんでも不幸からのし上がり生ぬるい幸せに身を溶かすより
かわ、数倍も数千倍も数億倍も素敵でマシだとは思わない？

そうよ！これよ

「めでだしでは、終わらない」

アン・ハッピー・エンド

一画のビルの小会社が火事により消失。鎮火された焰の中からは沢山のミンチ切りされたその日働いていた全会社員のものと思われる。骨肉は最早焦げ炭と化していたがその中で一つだけ汚れ一つなく無事な物があった。
それは……

『HIMEKO』……そう書かれたマツチだった……。

(後書き)

苦情などは受け付けません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2477i/>

めでだしでは終わらない

2010年10月21日23時05分発行